

2018年10月23日

大阪産業大学附属高校

2017年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属高等学校
学校関係者評価委員会

10月23日に学校関係者評価委員会（8名中5名の委員が出席）を開き、会議冒頭にホームページに掲載している体育祭の動画を視聴し、その後、学校が公表する学校評価に基づいて大阪産業大学附属高等学校の教育について議論しました。その概要を報告します。

1. 2017年度 学校評価について

学校からの授業アンケート結果についての分析報告、学校評価の報告を受けて各委員から学校への質問、感想や提言がありました。学校から地域の情報紙に掲載されている地元との交流の様子が紹介されると、委員から「よく工夫している」と評価の声がありました。大阪産業大学附属中学・高校の中高連携の事例紹介に対し、委員からうまく機能していると評価があり、学校から高大連携も機能させることができるといふ意見がありました。

2. 学校教育への提言

A. 保護者代表から

自分は大阪産業大学附属高校OBだが、自分が在学していた頃より、地域の方から高く評価されている、地域の方は地元の学校の生徒をよく見ているので、地域に密着した活動を大切にしていってほしいとの意見がありました。また、学校アンケートについて様々な角度から質問項目を設定していることについて評価する意見がありました。

B. 同窓生代表から

学校からの生徒のクラブ参加率が高いという報告を受けて、生徒の人間形成に資するクラブ活動への生徒の参加率の高さに対し、評価する意見がありました。

C. 大阪産業大学の教員から

大学には担任制がなく、学校からの働きかけがないと学生が大学から離れていくことになりやすい現状について話がありました。また、大学から学校に対し、不登校の生徒はどれくらい在籍し、その生徒たちにどう対応しているのかという質問がありました。